

## フェアトレードの成果



渡辺 龍也 Watanabe Tatsuya 東京経済大学 名誉教授

日本放送協会(NHK)、国際機関、国際協力NGO等を経て、2000年より東京経済大学教員。主な著書に「フェアトレード学」(新評論、2010年)、「フェアトレードタウン」(新評論、2018年)がある

今回はフェアトレードがどのような成果を上げてきたのか、2009年から2015年にかけて公表された45の調査結果と、2021年に3大作物(コーヒー、バナナ、ココア)を対象に行われた調査の結果を中心に伝えていきます。

### 受益者数

まず、フェアトレードに支援されている受益者(生産者と労働者)の数を見てみましょう。2021年時点で国際フェアトレードラベル機構(FI)の受益者は203万人、世界フェアトレード連盟(WFTO)の受益者は97万人でした。ただ、その両方に参加する生産者・労働者もいれば、どちらにも参加しない生産者・労働者もあります。そのため受益者の総数は推測せざるを得ませんが、250万~300万人(扶養家族を含めると1200万~1500万人)に上ると考えられます。

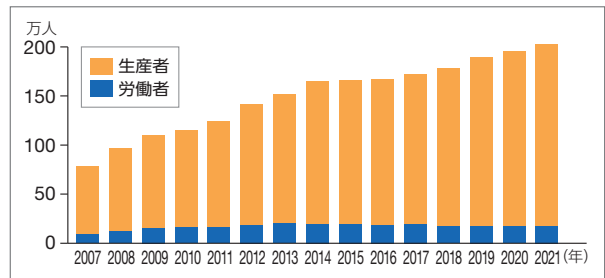
右上のグラフはFIが公表している受益者数の推移で、2007年から2021年の間に2.6倍になっています。未公表の2000年時点の受益者数を筆者なりに推計するとFIが約20万人、WFTOが約40万人となるので、2000年から今日までの増加率は約5倍と推定されます。

### 収入の向上

フェアトレードによって受益者はどれほど収入を向上させているのでしょうか。収入は生産量と販売価格、それにフェアトレードのルートで売れる割合によって決まります。フェアトレードはビジネスでもあるので、売れ行きを勘案しながら生産者から買い入れます。そうしないと

図 フェアトレードの受益者数

\*筆者作成



在庫を抱えて行き詰まってしまうからです。そのため、生産量のうちフェアトレードの価格で売れる割合は、FI認証の場合バナナが70%、カカオが47%、コーヒーが34%、砂糖が24%、紅茶が5%程度で(2016年時点)、残りは通常のルート、価格で売らざるを得ません。

ではフェアトレードの価格は通常の価格(市場価格)とどれくらい違うのでしょうか。それは製品、時期、地域などによって違ってきます。

コーヒーを例にとると、価格が大暴落した2001年はフェアトレードが保証する最低価格は市場価格の2.5倍でした。一方、価格が高騰した2011年は最低価格より高い市場価格のほうを払うルールなので差がなくなりました。直近の2021年にペルーで行われた調査では最低価格が市場価格を10%上回っていました。

価格に生産量を掛けた「収入」では、同調査でフェアトレードに参加している生産者(以下、FT生産者)が参加していない生産者(以下、非FT生産者)を53%上回っていました(生産量の違いも影響していると思われます)。

調査によっては収入の向上が限定的、わずかなし、という結果も出ています。その理由としては、フェアトレード価格で売れる割合が少な

い、最低価格が市場価格より低い、生産コストが高騰、といったことが挙げられています。

生活物資や生産用資材の値上がりが生活を圧迫するなかで、生産者側は最低価格の引き上げを常々求めています。そのためときどき最低価格が見直されていますが、大幅な引き上げは買い手や買い入れ量の減少という逆効果を招きかねないため難しい、というジレンマがあります。

## 生活の質の向上

二百数十万人の生産者や労働者が参加する今日、フェアトレードが貧困の軽減、削減にどれほど貢献しているのか、その全体像を明らかにするのも至難の業です。

高い削減効果が確認されたのはウガンダのコーヒー生産者を対象にした調査で、FT生産者間の貧困率は非FT生産者間の貧困率の半分にとどまり、その削減効果はオーガニック認証やウツ認証よりずっと大きいという結果でした。

FT生産者の食料や栄養の状態は非FT生産者より良好なことも各種調査から明らかになっています。増えた収入は子どもの教育にも向けられます。チリのフェアトレード養蜂農家の調査ではフェアトレードの取引年数が1年増すごとに子どもの就学率が1.8%上昇すること、つまりフェアトレードに長く関わるほど子どもが学校に通えるようになることが分かりました。

最低価格の保証に加えて生活の向上に寄与しているのが「割増金(プレミアム)」です。それは最低価格の数%から10数%分を上乗せして生産者組織に支払うもので、2021年には1組織当たり平均10万ユーロ強(約1400万円、1人当たりでは1万3000円)が支払われました。

割増金は組織の構成員が話し合っ<sup>て</sup>皆の利益になる事柄に使うことになっています。最も多い使い道は収入を増やすための投資で、生産・加工施設の設置や機器・資材の購入、研修の実施、オーガニック認証の取得などが含まれます。

その他の使い道としては、教育を充実し、健

康を増進させるための投資や支出があります。教育面では学校の建設、識字教育の提供、奨学金の供与などが、健康面では診療所の開設、井戸・トイレの設置、医療費の補助などがあります。FT生産者の子どもは、中等教育はもちろん高等教育に進むケースも増えています。

## セーフティネットとしての役割

多くの報告書が指摘する成果がセーフティネットとしての役割です。市場価格が暴落したとき、フェアトレードの最低価格は最低限の生活を守ってくれます。農作物は病害虫によって壊滅的な被害を受けることがあります(バナナの新パナマ病、コーヒーのさび病など)。最近ではコロナ禍で消費が落ち込み、物・人の移動が制限されたことで生産物が売れなくなりました。

そうした逆境が襲ったペルーのコーヒー生産地では、非FT生産者が貯金を使い果たして借金をし、なかには返済ができずに農地の売却や自殺に追い込まれたケースもありました。FT生産者も打撃を受けましたが、先進国の取引相手が買い支えたり、生産者組織が割増金を現金で配ったり、無利子や低利で貸し付けたりして逆境を乗り越えられたといえます。

このようにフェアトレードは有事の耐久力(レジリエンス)を高め、セーフティネットとして重要な役割を果たしているのです。

## 組織力の強化とネットワークの構築

フェアトレードは生産者に組合作りを求め、大農園や工場の場合は労働者組織の結成を求めます。生産者や労働者は“団結”することで買い手や雇用主に対して声を上げ、フェアな取引や雇用を実現できるようになるからです。

組織力の強化は交渉力の強化ももたらし、フェアトレード以外のルートで売らざるを得ないときも今までより高く売れたり、生産用資材であれば安く買えたりするようになります。

生産者・労働者組織には議決権の平等、定期的な会議の開催、文書化や報告義務化による透明性の確保などを求めている、そうした「民主的な運営」はある程度実現できているようです。

フェアトレードは、国際協力NGOや生産国の政府、同業者の全国組織といった外部のステークホルダーとのネットワークを築くことで、資金的・物質的・技術的な支援を獲得するだけでなく、有利な環境を生み出してもいます。ガーナとコートジボワールの政府は、フェアトレード側からの働きかけもあって、カカオの買い手に1トン当たり400ドルの生活所得保証金を支払うよう求める“公的なプレミアム割増金制度”を2020年にスタートさせました。

## 弱者の保護・エンパワーメント

児童労働の禁止はフェアトレードの重要な原則で、各種の調査で少なくともその改善が報告されています。世界全体では新型コロナウイルスが蔓延した2020年に児童労働が20年ぶりに増えてしまいました。ペルーでコーヒーを栽培する非FT生産者の間では、学校の閉鎖や収入の減少に伴って児童労働が増えていました。FT生産者と違って、教育費が払えなかったり、リモート授業を受けるのに必要な機器が買えなかったりしたためだといいます。

女性に関しては、総じて発言権が強まったり、より重要な役割を果たしたりといった改善が見られます。ガーナのココア生産者組合はジェンダー問題担当部署を置き、幹部の一定数を女性にするクォーター制を採用するなど先進的な取り組みをしています。ただ、多くの地域では男性優位の文化や社会慣習が今でも大きな壁として立ちはだかっていると報告されています。

## 環境の保全

調査ではFT生産者は非FT生産者よりも環境への意識が高く、例えばペルーでは非FT生産者が焼き畑農業を続けているのに対してFT生産

者は野生生物や固有種の保全に努めています。ガーナのカカオ生産者組合は独自の環境政策や年次環境計画を策定して植林やアグロフォレストリー、太陽光発電などに取り組んでいます。

フェアトレードは有機農業を推奨し、生産者が殺虫剤や化学肥料の使用を減らしているため水質や土壌の質が改善されています。

気候危機は各地で水害、干ばつ、病虫害の発生などの問題を引き起こし、生産への影響も深刻化しているためFT生産者は危機感を強めています。ただ、あまりにも大きな問題なだけに有効な対策を取れていないのが実情のようです。

## 波及効果

フェアトレードは非FT生産者や地域社会全体にも波及効果をもたらしています。マリではFT生産者が綿花の品質を高めて高く売れるようになったのを見て、非FT生産者も綿花の品質を高めるようになったといいます。また、FT生産者が多数を占める地域では、フェアトレードが価格決定力を持つようになり、非FT生産者もその恩恵にあずかって高く売れるようになったという報告もあります。

割増金は地域社会のために使うことも推奨されています。例えば割増金で建てられた学校や診療所は地域の住民にも開放されています。そのほか給水タンクを設置したり、道路をよくしたり、街灯を整備したり、蚊帳を配布したり、英語レッスンを提供したりと地域貢献の方法も多様です。ペルーのFT生産者組合は、少数民族のコーヒー生産者を積極的に迎え入れ、組合費も半額にする優遇措置を取っています。

以上のようにフェアトレードはさまざまな成果を上げています。ただ、測る対象(産品、生産者、地域、年など)によって成果には大きな違いが出てきます。ここで紹介した事例の多くは長年フェアトレードに関わってきた組織のもので、年数の浅いFT生産者組織の場合は成果が限られることも付言しておきたいと思います。